

# 「『まるごと』を知るコース」実践報告

ー協学による気づきのある研修をめざしてー

アーパーポーン ナオサラン・早川直子

## 1. コース開講の背景

2017年に『まるごと 日本のことばと文化』（以下、『まるごと』）タイ語版が発刊されて以来、民間の日本語学校の教師や大学や高校の会話クラスを担当している教師から、問い合わせが続いた。内容は、会話クラスで市販の教材をアレンジした自主教材を作成していたが、『まるごと』に変えたいので、どう教えたらいいかというものが多かった。特に、「かつどう」と「りかい」の2冊の教材をコースでどう組み合わせるか、また、多数のイラストや写真、音声は授業の中でどう使ったらいいかわからないという声であった。

『まるごと』は、ことばによるコミュニケーションを通して相互理解につながる日本語教育の実現をめざしていることから、ただ文法や文型の知識を増やすのではなく、現実の場面で使える日本語を学べるのが特徴である<sup>(1)</sup>。また、初級レベルまでは、コミュニケーションの実践力をつけるために、日本語をたくさん聞き、話す練習をする「かつどう」と、コミュニケーションに必要な日本語のしくみについて体系的に学ぶ「りかい」の2冊に分かれている。

このような背景から、国際交流基金バンコク日本文化センター（以下、JFBKK）では、JF日本語教育スタンダード<sup>(2)</sup>準拠教材『まるごと』の概要を広く知らせ、同時に教師研修を行う「『まるごと』を知るコース」を開講した。

JFBKKは2017年度、バンコク近郊の日本語教育機関や教師会、地方のコンソーシアムを訪問し、『まるごと』の概要説明と授業イメージの紹介をする『まるごと』広報セミナーを行った。そして、2018年度に教材の使い方、授業体験を含めた3か月のコースとして「『まるごと』を知るコース」を開講した。本稿ではコースの概要、内容、さらにコース後半の実践編について報告する。

### 1.1 コースの目的

様々な属性の教師が集まるコースは、参加者にとって貴重な機会となるであろうことから、教師同士が共に考え、学び、実践することでより多くの気づきを得ることを期待し、コースの目的を「まるごとの教え方を知りたい教師が、ほかの参加者との協学を通して、JF日本語教育スタンダード準拠教材のコンセプトを理解し、教え方を身につける」と定めた。タイ人も日

本人も、新人もベテランも、全ての教師が対等に学び合う場を目指した。本コースでは、相互理解のための日本語というコンセプトを理解してもらうために、「かつどう」と「りかい」両方を扱った。

## 1.2 コースのスケジュール

コースは表1の通り、前半4回の理論編、後半4回の実践編、全8回の授業で構成した。1回あたりの授業時間は90分で、夜間のコースとして午後6時15分から開始した。授業は主に隔週で行ったが、第6回目からの授業体験とふりかえりは体験終了後、間をあげないほうがよいと考えたため3週連続で実施した。

表1 コースのスケジュール

回	日程	内容	
1	10/31	オリエンテーション・『まるごと』の概要 (1) JF 日本語教育スタンダード	理論編
2	11/14	『まるごと』の概要 (2) 「かつどう」と「りかい」	
3	11/28	「かつどう」の授業の流れ	
4	12/12	「りかい」の授業の流れ	
5	1/9	教案検討会	実践編
6	1/23	授業体験「かつどう」	
7	1/30	授業体験「りかい」	
8	2/6	ふりかえり	

コース前半の第1回から4回は『まるごと』の概要と「かつどう」「りかい」の授業の流れについて理論的に学び、後半の第5回は授業体験のための準備、第6、7回は授業体験の実施、最終回の第8回は授業体験とコース全体のふりかえりをした。

授業外の活動には、報告者が JFBKK で担当している『まるごと A2 初級2』の授業見学を組み込んだ。『まるごと』の特徴を報告者から伝えるよりも、参加者自らが発見し、気づきを得られるよう、第3回を受講する前に見学が終えられるように計画した。

### 1.3 コースの参加者

表2 参加者属性

日本人、タイ人を問わず高等教育機関と民間日本語教育機関に所属する15名の教師が集まった。表2の通り、参加者の日本語教授歴は様々で、日本人教師10名、タイ人教師5名、また、大学で教えている教師10名、日本語学校

	参加者数	日本語教授歴（年）			所属機関	
		0-4	5-9	10-	大学	語学学校
日本人教師	10	4	2	4	6	4
タイ人教師	5	2	1	2	4	1
合計	15	6	3	6	10	5

で教えている教師が5名という構成であった。講義を日本語で行うこと、日本人教師との協学ということを考慮し、タイ人教師にはN2程度の日本語能力を条件とした。

### 1.4 使用教材

コースでは、『まるごと 入門 A1 かつどう』（国際交流基金）、『まるごと 入門 A1 りかい』（同）、ポートフォリオ、ハンドアウト、各種シートなどの教材を使用した。タイ人教師はタイ語版、日本人教師は日本語版を使用していた。

## 2. コースの内容

### 2.1 理論編（第1回～第4回）

前半の4回はJF日本語教育スタンダードから『まるごと』のコンセプトまで、そして「かつどう」「りかい」のそれぞれの教材の目的や内容、1課の構成、そして授業の流れについて学ぶ理論編とした。第1回はコースの概要とCEFR<sup>③</sup>を参照としたJF日本語教育スタンダードについて、続く第2回はJF日本語教育スタンダードと『まるごと』の関連について話し、『まるごと』がトピックベース、課題遂行型の教材であることや異文化理解を推進する内容であることなどを参加者に伝えた。第3、4回は授業のイメージをつかむために、「かつどう」と「りかい」の1課分の流れを全体で確認したあとで、報告者がデモレッスンしながら解説した。

宿題としては『まるごと』関連のサイトやサイトで公開されている授業紹介動画を見てくることを課し、その他の活動としては、報告者の「かつどう」と「りかい」の授業見学をしてもらった。15名中11名が「かつどう」「りかい」両方の授業を見学し、残りの4名はどちらか一方を見学した。

### 2.2 実践編（第5回～第8回）

第5回の教案検討会では、15名の参加者が4つのグループに分かれて授業体験の準備をした。時間内に授業の流れを話し合うことしかできなかったため、参加者は授業時間外に教案とパワーポイント教材を仕上げて締め切りまでに提出することになった。そして、第6、7回の授業

体験は、授業時間を通常の『まると』講座に合わせ120分に拡張し、JFBKK『まると』講座受講者を含む学生役を前に授業をし、第8回は授業体験と本コース全体について2つのふりかえりを行った。

### 3. 授業体験

理論編で学んだことを実践に移す後半の授業体験では、右図の通り、参加者が4グループに分かれた。

「かつどう」A・Bグループ、「りかい」A・Bグループの計4グループとなり、1グループは3、4名で編成された。「かつどう」「りかい」のそれぞれの体験授業は一日ずつ2会場において実施され、『まると入門 A1』第6課の120分の授業をメンバーがひとりずつ交代で担当した。学生役にはJFBKKの『まると』講座受講生やボランティアの協力を得た。また、当日授業を担当しないコース参加者は見学者となり、授業を評価した。

	6回(1/23) 授業体験 「かつどう」	7回(1/30) 授業体験 「りかい」
かつどう A (3名)	授業	見学
かつどう B (4名)		
りかい A (4名)	見学	授業
りかい B (4名)		

図1 授業体験のグループ

#### 3.1 授業の評価（他者からの評価）

見学者となったコース参加者は、図2のチェックシートを用い、授業が『まると』のコンセプトに沿っているかどうか教師目線でチェックした。また、学生役として参加したJFBKK講座受講者は図3「学生役によるコメント」の「チェックシート（学生）」を用い、学生目線で授業を評価した。そして、授業体験で教師役となった参加者は第8回のふりかえりの授業までに図4「授業体験のふりかえり」シートを用い、自己評価をした。これらの2種類の他者による評価シートと自己評価シートについては次で詳しく述べる。

##### 3.1.1 授業見学者からの評価

授業見学者による「チェックシート（教師）」（「かつどう」の場合）の評価ポイントは、①学習者が目標Can-doを達成できるようファシリテートした、②新しい文型や表現などに気づかせるようファシリテートした。

チェックシート（教師）1月23日		かつどう
授業体験について	ひょうか	コメント
①学習者が目標Can-doを達成できるようファシリテートした。	☆☆☆	数回も初めはみんなが自分たちの役割がしどろ。ことばのやりとりで不足していました。
②新しい文型や表現などに気づかせるようファシリテートした。	☆☆☆	注目してほしいところに、日本語で未習語が使われたので少し混乱しました。
③学習者同士で意見を交換したり理解の確認をしあったりするチャンスを与えた。	☆☆☆	とがらのページでグループでアスファルトの経験について話さず、文化のページを自由に話さずだったので大変でした。
④ことばの使用場面やことばと文化がつながるよう配慮していた。	☆☆☆	場面はあてて意識していましたが会場の場面提示がなかったようです。

図2 授業見学者によるコメント ※下線は報告者

どに気づかせるようファシリテートした、③学習者同士で意見を交換したり理解の確認をしあったりするチャンスを与えた、④ことばの使用場面やことばと文化がつながるよう配慮していた、というコース前半の理論編で学んだ内容から4点を評価し、さらに1つ1つのポイントについてコメントした。図2の下線部「場面はある程度意識していたが、会話のときまた場面提示があったらよかった」のように、ことばの使用場面を大事にする必要があるという気づきを記したコメントが目立った。

### 3.1.2 学生役からの評価

次に、学生役となったJFBKK『まるごと』講座受講者が記入した「チェックシート（学生）」の評価ポイントは、①自分で考えたり、友だちと確認しながら、答えをさがすことができた、②授業が理解できた、③楽しく自分のことばで話すことができた、の3点であった。「かつどう」の学生役は図3の下線部に「自分で考えたり答えを見つかったり、また友だちと意見交換できて目標を達成できた」とあるように、「自分で考える」「自分で答えを見つける」ことが意識できていたことがわかる。また、この学生役には実際の『まるごと』講座で学習者がいつも授業終了時に記入する「Can-do チェックシート」と「日本語チェックシート」を授業体験後に書いてもらった。

「チェックシート（教師）」、「チェックシート（学生）」、「Can-do チェックシート」、「日本語チェックシート」の4種の評価シートは次章に述べる「4. ふりかえり」の時間に授業体験のグループメンバーで読み合いながら、自分たちの授業体験をふりかえるための材料とした。

チェックシート（学生） 1月23日（かつどう・りかい）		
授業体験について 気づき	評価 ประเมิน	コメント คอมเมนต์
①自分で考えたり、友だちと確認しながら、答えをさがすことができた。 ผู้เรียนมีโอกาสดูคิดและค้นหาคำตอบด้วยตนเอง และตรวจสอบกับเพื่อน	★★	自分で考えたり答えを見つかったり、また友だちと意見交換できて目標を達成できた。  だいたい理解できたが、時々先生の話すスピードが速かった。また、時々機材の熱度が熱かった。
②授業が理解できた。 ผู้เรียนสามารถทำความเข้าใจเนื้อหาในชั่วโมงเรียนได้	★★	楽しかった。授業中ビデオクリップがあったから、退屈ではなかった。また友だちと話す練習をしたことで実際に使うことができた。  写真や具体例があってよかった。 先生が生徒に質問したりして生徒をよく見ていた。
③楽しく自分のことばで話すことができた。 ผู้เรียนสนุกกับการพูดคุยด้วยคำพูดของตนเอง	★★	
その他の感想 หากมีความคิดเห็นอื่นๆ โปรดระบุ : • รอบเวลาที่เหมาะสมกับเวลาเรียน หรือขอเพิ่มชั่วโมงเรียน • ผู้สอน ชื่นชอบ ไม่ชอบ มีอะไรที่อยากให้เรียน รอบที่ฝึกพูดด้วย		一番印象に残ったこと・おもしろかったことは？ どのポイントが印象に残りましたか？

図3 学生役によるコメント ※下線は報告者

## 4. ふりかえり

コースの最終回である第8回のふりかえりでは、授業体験とコース全体の2つのふりかえりを行った。この時、報告者が目指したことは、コース全体を眺めて感想を述べるだけのふりかえりではなく、「課題を洗い出し、今後の授業につなげる」実りのあるふりかえりにすることだった。そのために、「なぜふりかえるのか」という目的を明らかにし、材料となる他者からの評価シートを目の前にそろえ、最初は個人、次にグループでというステップを踏んで、様々な視点、角度からふりかえりを行った。これらのふりかえりの目的と材料、手順については次で述

べる。

#### 4.1 ふりかえりの目的

ふりかえりの時間は限られていたため、何を何のためにふりかえるのかを最初にはっきりと示す必要があった。そこで授業では、「ふりかえりのポイント(何を)」を提示し、まず各グループで、それから個人で「ふりかえてどうしたいのか(何のために)」を考えてもらった。授業体験の「ふりかえりのポイント」は授業体験のチェックシートに示されたポイントを参考にした。他方、コース全体の「ふりかえりのポイント」には後述の「Before & After シート」を用いた。そして、その後の「ふりかえてどうしたいのか」について考える時間では、授業体験や本コースで得た学びを自分の授業に生かすため、各自が今の自分と向き合いながら今後の目標を定めた。

#### 4.2 ふりかえりの材料

授業体験のふりかえりの材料としたチェックシートは、「3.1.1 授業見学者からの評価」と「3.1.2 学生役からの評価」で述べた見学者と学生役が記入した「チェックシート」のほか、授業体験後に教師役の授業担当者自らが記入した図4の「授業体験のふりかえりシート」を用いた。

ふりかえりは「①うまくいった点、いかなかった点は何か。なぜそう思ったか。」「②教案通りにできたか。準備に欠けている点があったとすれば、今後どうすればいいか。」「③その他(学習者の反応はどうだったか。新しい発見はあったか。等)」の3つのポイントに沿って考えてもらった。

図4「授業体験のふりかえりシート」に示した参加者はうまくいった点を「タスクに入る前の準備をきちんとしたので、活発な活動になった」と記した。反対に、うまくいかなかった点としてタイムコントロール、内容の準備不足を挙げた。また、その他として「一人では思いつかない内容豊富な授業になった」とコメントした。他の参加者のシートにも、見学者や学生役からのコメントが一番役に立ったという記述がみられ、コースの目標でもあった協学の効果は

**授業体験のふりかえり 名前 ( )**  
 2月6日の授業に忘れずに持ってきてください!

① うまくいった点・うまくいかなかった点は何か。なぜそう思ったか。  
 しっかり場面を設定して、タスクに入る前に先生と十分話したので、Can-do 13「ペアで話し合おう」は活発な活動になったのではないかと思い、最初から最後まで通いグループで練習できたので、全体的に授業がスムーズに

② 教案通りに授業ができたか。準備に欠けている点があったとすれば、今後どうすればいいか。  
 授業が予定より早く終わってしまいました。話題や会話活動をもっと準備するべきだったと思います。最後の文化紹介は若しゆれに時間をつなげていたので、準備が十分であれば、もっと臨機応変に対応できたのではないかと

③ その他(学習者の反応はどうだったか。新しい発見はあったか。等)  
 学習者は積極的に授業に参加してくれました。一人では思いつかない内容豊富な授業になりました。

図4 授業体験のふりかえりシート※下線は報告者



## 「『まるごと』を知るコース」実践報告

特にコースの後半で発揮されたことがわかった。

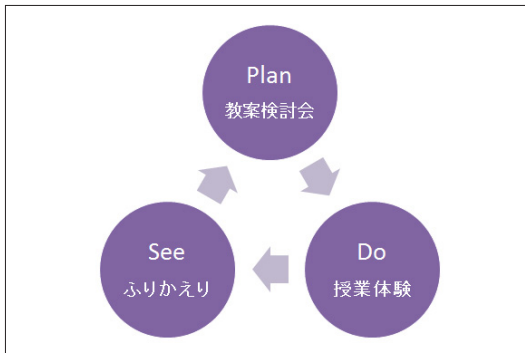


図5 授業実践の流れ

コース後半の実践編の流れを図で示すと左の図5のようになる。はじめに、グループのメンバーで教案を検討し（Plan）、次に、授業を実施し（Do）、その後、グループや個人で「今」を受け止め、今後につなげるためのふりかえりをした（See）。このPlan（教案検討）、Do（授業体験）、See（ふりかえり）が一巡し、再びPlan（自分の授業案検討）、Do（自分の授業実施）・・・が繰り返されることで授業がより

磨かれると考え、ふりかえりを重要なステップとした。授業体験のふりかえりの後はコース全体のふりかえりをした。コースで学んだことを今後の自分の授業にどのように生かすかを考えることが目的で、こちらも二巡目のPlanにつながる必要なステップである。ふりかえりの材料には自己評価シート「授業体験のふりかえり」を含む各チェックシート、表3にある「教師用 Can-do チェック表」やコースでの配布資料を使用した。

表3 教師用 Can-do チェック表 ※下線は報告者

『まるごと』を知るコース Can-do チェック表			
回	Can-Do	評価	コメント
Day 1	コースの目的と何ができるのかを理解した。	★ ★ ★	自分の授業（初級読解作業）に合っていない？
	JF日本語教育スタンダードについて理解した。	★ ★ ★	Can Do ラベスから見ていえると思った。
Day 2	『まるごと』のコンセプトについて理解した。	★ ★ ★	文法と上級に取入れられたいと思った。
	「かつどう」のコンセプトについて理解した。	★ ★ ★	ダスク先の方がいいと思った。
Day 3	「りかい」のコンセプトについて理解した。	★ ★ ★	文法と文脈の中で教えるべき。
	「かつどう」の授業の流れについて理解した。	★ ★ ★	りかいと上級レベルに合わせたと思った。
Day 4	「かつどう」の授業の教案を作成し、授業のイメージをつかんだ。	★ ★ ★	教案のアイデアも得た。
	「りかい」の授業の流れについて理解した。	★ ★ ★	
Day 5	「りかい」の授業の教案を作成し、授業のイメージをつかんだ。	★ ★ ★	理解の教案は作成できなかった。
	ほかのチームにコメントをしたり、コメントを受けたりして、修正のポイントに気づいた。	★ ★ ★	疑問点が話し合えたと思った。
Day 6/7	教案をチームでまとめた。	★ ★ ★	納得のいく教案ができたと思う。
	教案の内容に沿って教えた。ポイントを押さえて授業した。	★ ★ ★	ハミングがあったが緊張せず教えられた。
	他の教師とチームワークよく進められた。	★ ★ ★	他の先生の教方に学ぶことが多かった。
	見学により気づきを得た。	★ ★ ★	母語の使い方の参考になった。
Day 8	見学した授業の改善点を見つけた。	★ ★ ★	「開かせる」という言葉を身につけたい。
	コース全体を振り返って、まるごとのコンセプトを理解した。	★ ★ ★	理解編のコンセプトが分かったが、内容は場当たり的に、言葉は同じだが活動が大きい。指示とクリアにゴールを明確に示す。

表3では、本コースの目的でもあったDay8の2つのCan-do、「コース全体を振り返って、まるごとのコンセプトを理解した」「まるごとの教え方の基本を身につけた」への自己評価が高かったことがわかる。表3の参加者は「場面を明らかに、学習者同士の活動を大事にする」「指示をクリアに、ゴールを明確に示す」と記している。他の参加者からも、コンセプトは理解できたので、今後実践につなげたいというコメントが多くあり、この結果からもコースの目的は達成できたと考える。

さらに、ふりかえりの材料として、図6の「Before & After シート」を用いた。このシートは国際交流基金マニラ日本文化センター

で使用したシート「いい教師とは?」(早川・カルメンシータ・中込 2014)を本コースのふりかえり用にアレンジしたもので、シートは上段と下段に分かれており、上段にはコース開始直後の『まるごと』を知る前に「こうなったらよい」あるいは「こうなるのではないか」という漠然とした希望や期待を込めたキーワードや文を書き、下段にはコース終了時のふりかえりを踏まえ、Before に書いたことを今はどのように感じるのかを書いた。書きにくい参加者には、コースに参加してどのように変わったか、何がわかるようになったか、あるいは何がわからなくなったか、新しい発見があったかなどの問いをこちらから投げかけ、それに答える形で書いてもらった。

図6の記述では、Before に書かれていた「文法の触れ方」について、After では「考えさせて気づかせるためのヒントや質問を工夫してすぐに答えを出さない」という気づきが得られていることがわかる。また、他の参加者のシートには「ただ文型を教えるのではなく、文化やことばを結びつけ、場面を大切に教える。」と記され、ことばと文化をセットにして大事に扱うことがコースへの参加を通して意識できたことがうかがえる。

以上、授業体験とコースの2つのふりかえりでは、コースで得た学びや気づきをグループメ

**まるごとを知るコース Before**

導入と比べでやること、量、程度	かなかなどの程度	漢字は軽く?
文法の触れ方	まるごとを知った私の授業は...	パワーポイントのタイミング
発展・応用・展開	タイ語の使用量	口頭練習のタイミング

**まるごとを知るコース After**

導入と比べでやること、量、程度 自分たちと比べ、授業で経験、Can-doをタイ語でいえる確認する。	かなかなどの程度 あまり重きをおきすぎない	漢字は軽く? 見て読めて意味がわかる体験が少し程度いする。
文法の触れ方 考えさせて気づかせる。ヒントや質問を出して、その答えを使わない。	まるごとを知った私の授業は...	パワーポイントのタイミング パワーポイントで、すすめていく。
発展・応用・展開 タイ文化、生活に必ずつなげて教えること。	タイ語の使用量 学習のペースと場面、状況でタイ語や英語を使い、パワポで教える。	口頭練習 シャドーイングや、保て、練習を繰り返す。音声を活用して。
まとめと今後の目標 興味やわかる場面や課題のふりかえりを工夫すること。		

図6 Before & After シート ※下線は報告者



ンバーと共有し、シートにまとめることでより明確にすることができた。同時に、他の参加者の気づきも自分のものとして受け止める有意義な時間となった。

## 5. まとめと今後の課題

コース終了時のアンケートから、参加者は特にコース後半の実践編で多くの学びがあったと感じていた。参加者はグループでの活動に学びを見出し、教師として成長するために自らを根強く省みることを厭わなかった。以下にアンケートの記述の一部を紹介したい。

- ・ 知識だけでなく、実際に考えてやってみて人から指摘を受けて振り返るという作業を通して確実に身に付いたという実感をもてた。
- ・ 他大学の先生と協働することで先生の色々な考え方を聞くことができ、勉強になった。
- ・ グループの先生方との話し合い、授業実施は大変貴重な機会となり、多くの学びを得た。

＜全て原文まま＞

本コース開講前は、普段交流が乏しい他機関の教師同士が意見を交換し、コメントを述べ合うことに抵抗を感じる参加者も少なくないのではないかと危惧したが、実際にはタイ人教師と日本人教師、新人教師とベテラン教師の間でも他者のコメントを好意的に受け止め、メンバーと協学することに意義を見出していた。それは他者からのコメントを自分の授業に生かそうとする記述がふりかえり時にみられたことからわかる。さらに、コース全体のふりかえりでも、コースが他機関の教師たちと交流する貴重な機会であったと述べた参加者もあり、コースの目的であった協学は十分達成されたといえよう。

しかし、同時にいくつかの課題も残した。一つは使用教材であったポートフォリオを全く活用できなかったことである。ポートフォリオが自らの学習を管理し、ふりかえりの材料となるツールであることを意識してもらう工夫や働きかけをしなかった。その他に、コース後半の実践編の時間が足りなかったことも課題として挙げられる。授業体験に臨む前の教案検討と授業準備の時間を十分に確保する必要があっただろう。次回はこれらの点を改善したい。

報告者が本コースを企画、実施するにあたって心がけたことは、参加者に気軽に学んでもらい、何より自分も早く『まるごと』を使ってみたいと思ってもらうことであった。そのため、できる限り後半の実践編の負担が少なくなるように計画したが、参加者は報告者の心配をよそに丁寧に実践に取り組んだ。本コース最大の収穫は、教師や機関の交流で生まれた協学の効果が予想以上に大きかったことであろう。

〔注〕

<sup>①</sup> 「まるごとサイト」 <https://www.marugoto.org/>

<sup>②</sup> JF 日本語教育スタンダードはコースデザイン、授業設計、評価を考えるための枠組み。

<https://jfstandard.jp/summary/ja/render.do>

<sup>③</sup> CEFR は Common European Framework of Reference for Languages : Learning, teaching, assessment の略で、2001年に発表されたヨーロッパの言語教育・学習・評価の場で共有される枠組み。

<https://jfstandard.jp/cefr/ja/render.do>

〔参考文献〕

早川直子・カルメンシータ ビスカラ・中込達哉 (2014) 「JF 日本語教育スタンダード準拠コースブックを使用した教師研修－『まるごと 日本のことばと文化』(入門 A1 かつどう) 教師研修の実践－」  
『国際交流基金日本語教育紀要』10、71-83

資料 コース修了アンケート

2018年度 『まるごと』を知るコース（教師研修） 修了アンケート

1. 回答者自身について： あてはまる口にチェックしてください。

- (1) ご自身： ☐ タイ人教師 ☐ 日本人教師  
 (2) 日本語教授歴： 教授年数 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ ヶ月  
 (3) 所属機関： ☐ 大学 ☐ 語学学校 ☐ その他 \_\_\_\_\_

2. 全体について： 下の質問に答えてください。答えは口にチェック（✓）してください。

- (1) 本研修への満足度：  
☐ 満足 ☐ やや満足 ☐ どちらともいえない ☐ やや不満 ☐ 不満  
 (2) 上記（1）でそう思った理由は何ですか。なるべく具体的に書いてください。

---



---

3. 研修内容について： 番号に○をして理由をお書きください。

1. 役に立つ 2. やや役に立つ 3. どちらともいえない 4. やや役に立たない 5. 役に立たない

回	内容	評価	理由
1	『まるごと』の概要（1）JF日本語教育スタンダード	1・2・3・4・5	
2	『まるごと』の概要（2）「かつどう」と「りかい」	1・2・3・4・5	
3	「かつどう」の授業の流れ	1・2・3・4・5	
4	「りかい」の授業の流れ	1・2・3・4・5	
5	教案検討会	1・2・3・4・5	
6	授業体験「かつどう」	1・2・3・4・5	
7	授業体験「りかい」	1・2・3・4・5	
8	ふりかえり	1・2・3・4・5	

以下について教えてください。

- (1) 特に参考になったもの・役に立ったもの \_\_\_\_\_  
 (2) 特にわからなかったもの \_\_\_\_\_

4. 実施時期・時間について：

- ☐ 週に1回の継続コース ☐ 2週間に1回の継続コース ☐ 1日または2日の集中コース  
 参加しやすい開催時期・曜日など（ \_\_\_\_\_ ）

5. その他のご意見またはご感想： \_\_\_\_\_

---

ご協力ありがとうございました。

